

< 参考 > 講師の略歴

小松原 明哲 (こまつばら あきのり)

早稲田大学理工学術院創造理工学部経営システム工学科人間生活工学研究室 教授

早稲田大学理工学部工業経営学科卒業。博士(工学)。1996年金沢工業大学教授、2004年より現職。消費者庁事故情報分析タスクフォース委員、国土交通省航空局空港制限区域内事故防止対策検討会委員、日本航空、JR貨物、関西電力などの安全アドバイザー・安全検証委員などを務める。専門は人間生活工学。ヒューマンファクターにかかわるリスクマネジメントや、製品やサービスの人間中心設計についての研究を行っている。

(講演概要)

現代社会は、運輸、生産流通、情報通信などの社会技術システムにより支えられているが、こうしたシステムで事故が起きると、社会全体が甚大な影響を被ることもなる。安全を確実に達成するためには安全マネジメントが必要である。最近の安全マネジメントでは、人間はヒューマンエラーを起こす困った存在でもあるが、一方で、臨機応変、機転を利かす、現場力といったような素晴らしい面にも着目している。これがレジリエンス・エンジニアリングといわれるヒューマンファクターズの新領域であるが、その意味と位置づけについて考える。

山浦 一保 (やまうら かずほ)

立命館大学スポーツ健康科学部 准教授

広島大学大学院生物圏科学研究科博士課程(環境計画科学専攻)修了。2000年財団法人集団力学研究所研究員、2002年中央労働災害防止協会調査研究部リサーチ・レジデント、2007年静岡県立大学地域経営研究センター副センター長を経て、2010年より現職。産業組織心理学会理事、日本学術振興会特別研究員等審査専門委員社会科学領域などを務める。専門は産業・組織心理学。リーダーシップや、人間関係構築に関する心理学的研究を行っている。

(講演概要)

人と人がつながり、士気高く、風通しの良い組織・風土を創ること。このことは、安全確保を促すと言われ、だれもが望んでいる組織の姿である。しかし、それが良いことだと分かっているにもかかわらず...と頭の片隅をかすめた途端、自ら行動しない・できない、というためらいの心理が作動し始めることがある。

組織という箱の蓋を開けたとき、そこには一体、どんな姿の人間と心がうごめいているのか。和を重んじ、ソフト面にその強さがあると言われた日本企業で、いま、改めて何が重要なことなのか、皆さんと一緒に考える。